

【会議録】

事業名		令和８年度 第１回市川市文化芸術事業検討懇話会		
日 時	令和8年8月3日(月)10時～11時30分	出席者	【委 員】小笠原委員、朽木委員、福島委員 能村委員、鈴木委員	
場 所	八幡市民会館（全日警ホール） 2階 第2会議室		【事務局】文化国際部 文化芸術課	
種 別	☐ 交渉 ☐ 連絡 ☐ 提案 ☒ その他			
【内 容】				
1. 第2次市川市文化振興ビジョン 第１次実施計画について				
【議 事】				
(１) 第2次市川市文化振興ビジョン 第１次実施計画について				
(事務局から説明)				
・ 実施計画の位置づけ、事業選定の考え方、指標の設定、評価と見直しについて：資料 2-7 頁参照				
・ 実施計画事業（42 事業）の体系とリーディングプログラム：資料 10-56 頁参照				
・ 推進体制について：資料 58 頁参照				
(実施計画の位置づけ、事業選定の考え方、指標の設定、評価と見直しについて 意見交換)				
○鈴木委員				
2 頁 実施計画の位置づけについて、関係法令の国の法令の例に「劇場法」（劇場、音楽堂等の活性化に関する法律）を追加していただきたい。市川市には文化会館があり、地域の文化の拠点を大事にしていくという観点からも劇場法は重要であると考えます。				
○能村委員				
11 頁 基本方針 2-2「市川市芸術祭・文化祭」について。芸術祭・文化祭は市が負担金を出すなど力を入れてきた一方、新しい団体の参加は見られない。				
芸術祭・文化祭は広くいろいろなジャンルで市民参加できるものであり、文化に触れ合う機会として身近なものであるため、扱いを大きくするなど、新しい団体も入りやすい環境づくりにも力を入れていただきたい。				
○事務局				
12 頁で「中核となる文化芸術イベントの開催」の記載があり、芸術祭・文化祭もこれと併せて力を入れていきたいと考えている。				

○福島委員

「第 2 次市川市文化振興ビジョン」の目標年次は 2050 年であり、文化は若い世代にこそ担い手として根付いていくことが大切。学校教育との連携事例はあるか。

○事務局

基本方針 1-3-2「いちかわかるた」を市内小学 3 年生に配布し、地域資源を学ぶために活用していただいている。また、ニッケコルトンプラザでかるたを活用した子ども向けイベントを実施している。

「文化芸術プラットフォームシステムの構築」や「部活動地域展開推進事業」等の事業で、教育との連携を実施計画に盛り込んでいきたいと考えている。

また、12 頁「中核となる文化芸術イベントの開催」でも、子ども向けプログラムや、伝統文化・伝統芸能についても盛り込んでいきたい。

○福島委員

デジタルも素晴らしいが、体験や、人と人が出会いつながることが地域の暮らしや活動につながる。文化に関するポジティブな体験を各学年で実施することで積み重なり、人材育成にもつながると考えるので、学校教育との連携が計画に盛り込まれていると素晴らしいと感じる。

○小笠原委員

5、6 頁 KPI について、市民アンケートは毎年行っているのか。また、文化芸術施策は若年層に響かないと今後につながらないと思うが、20、30 代のアンケート回答率を上げる取り組みはしているか。

○事務局

5 頁アウトカム指標には、上位計画である「市川市総合計画 2050」基本目標の成果指標を入れている。この市民アンケートは企画部で実施しているもの。6 頁の中間「実施計画」の KPI に記載した市民アンケートは、令和 7 年度に文化芸術課で実施したもの。数値は直近のアンケート結果であるが、「市川市文化振興ビジョン（第 1 次）」の中間調査でも同様のアンケートを実施している。令和 7 年度のアンケート結果は、過去の結果に比べ肯定的な意見が増えている。

20、30 代の回答率を上げるため、アンケートを紙のほかいちモニ（Web）でも実施し、ICHICO ポイントというインセンティブをつけることで若年層が回答しやすい形式としている。

また 20、30 代の声を拾うため、アンケートだけでなくワークショップの実施や、大学・学校を通じまとめてアンケート回答を依頼することも考えていきたい。

○朽木委員

本実施計画を固定的にとらえるのではなく、年次的に見直しながら 5 年間全体の KPI 達成度合いを見ていくという理解でよろしいか。それであれば、見直しのアクションから次のプランまで時間をかけず、PDCA を早く回していくと良い。5 年の間に見直しを行いながら KPI の達成度合いを見るのは画期的だと感じる。海外では、計画を常に見直しながら実施していくことで実施計画の精度を上げる「二重スパイラル型」の政策立案の事例があるので、参考いただきたい。

○事務局

10～12 頁実施計画事業一覧にあるとおり、基本方策の中には現時点で事業がないものもある。5 年間このままというわけではなく、予算化・事業化を図りながら、新たな事業は事業計画に落とし込み、アウトプット指標を設定する。版を改定していく計画としたい。

（実施計画事業（42 事業）の体系とリーディングプログラムについて 意見交換）

○鈴木委員

14～55 頁について、令和 8 年度の予算額が「－」の部分は、予算なしということか。

また、子ども向けの事業が少ないように感じる。特に東京都は子どもが体験できるプログラムを多く実施している。例えばファッションショーを作り上げるなど、いろいろなジャンルの文化的な体験ができる。

基本方針 2 は「文化に関する体験」、基本方針 3 は「専門的に芸術を実践する子どもを育成する」という理解でよろしいか。

○事務局

ご指摘のとおり

○能村委員

市川市は文学課を設立し、文学賞の実施など日本語に関わりがある取り組みを推進していくように見える。その一方で市内小中学校では「言語探求科」として英語・国語・総合的な学習を一体的に行うという、「国語」をなくすように見える施策も行っており、矛盾しているように見える。

○事務局

教育委員会と力を合わせていきたいところではあるが、「言語探求科」の詳細は文化国際部ではわかりかねる部分がある。ご意見として頂戴する。

○朽木委員

34 頁「地域連携事業」について、具体的な大学名は記載せず「市内大学・短大」として留めることが良いのではないか。

32 頁「市川駅前ミュージアム事業」については「地域連携事業」や 27 頁「大学との連携による文化資源の継承事業」とも関連付けて進めていく旨記載すると良いと感じる。

49 頁「部活動地域展開推進事業」は運動系部活動に偏りがちなため、「文化芸術系部活動地域展開推進事業」などと名称に付すことはいかがか。

○事務局

事業名称については反映する。

○小笠原委員

33 頁「中山文化村事業」、35 頁「中山参道活性化事業」について、JR 下総中山駅から中山法華経寺まで 1 本の参道があるという立地から、船橋側の行政と連絡・連携を密に取り合っ進めていただきたい。

○事務局

所管課長に伝達する。

（推進体制について 意見交換）

○鈴木委員

共創型ミュージアム都市の実現をめざし、市川市文化振興財団も主体的に市のパートナーとして文化の推進に携わってけると良いと思う。効果的に共創できると良いと思う。

市川市文化振興財団の予算は指定管理料のみか。

○事務局

指定管理料のほか、実施主体が「市川市文化振興財団」で市との関わりに「補助金」とあるものは、財団が主体的に実施する事業に対して市が指定管理料とは別に補助金を出しているもの。

○朽木委員

共創型ミュージアム都市の実現にあたり、サテライト的な各施設への予算はあると思うが、回遊性を高める仕掛けづくりにも予算をかけずに注力していただきたい。

よくある手法として回遊マップがあるが、作って終わらないようにしていただきたい。

○鈴木委員

回遊性を高める仕掛けも大切であるが、広報も大切。現在の取り組みはあるか。

海外では、フェスティバルを実施している時にアプリをダウンロードするだけでイベント情報取得やチケット購入ができるという事例もある。

○事務局

文化芸術に関する情報発信などができる「文化芸術プラットフォームシステム構築」の予算化に努めたいと考えている。

○小笠原委員

観光振興課とも連携し、良い取り組みを外向き（市外）にもアピールできると良い。外向きに広報していくとより積極的な広報戦略が打てる。船橋市の商工会議所では文化資源に関するまち歩きと商店街振興を結び付けた取り組みを行っている。

○能村委員

現在民間団体が「回遊展 in 八幡」を行っているが、民間団体が関わってけるような仕組み作りが必要と考える。以前真間の大門通りで実施していた民間団体の企画で、書家を書いた万葉集の句が通りに掲げられていたことがあった。民間との連携の仕組みを考えていけたら良い。

○事務局

本日いただいたご意見は所管課に伝える。また、ご意見として頂戴する。

【会議録】

(2)その他

○福島委員

若い世代に寄与できる仕組みが必要だと感じる。提案だが、「部活動地域展開推進事業」について、文化系の部活動を支援する仕組みづくりをするのはどうか。例えば予算 100 万円で文化系部活動に対し市川をテーマにやりたいことを公募する。1 団体につき 10 万円を計 10 団体に交付し、1 年間活動した成果を市で発表する。賞を授与する等、参加学生のモチベーション(活動意義)にもなるし、市川市が教育を応援することにもつながる。このような仕組み作りも検討いただきたい。

(事務局からその他事項について)

本日のご意見を参考に、事務局で引き続き検討していく。